

今僕達は近所の小さな
森林の中の廃墟に肝だめし
に来ています。
どうやらその廃墟には
出る噂があるみたいで...



なんだあー？
危ないからこそ
避けていんじやあまが

おえーやめまうぞー
こんな時間に肝だめし
なんこ危ないよ？

おどろおどろ

そうだがさ
もう目の前まで来て
るんだからな

あー！！



ここだ！！
すげー！！

ふんいき
あるな！



こうく...
本当に入るの...?

さっそく
入ろうぜ!!

うわあ
すげえ!!

うわあ
いかにもって
場所だ
本当に出るの
かなあ
怖いなあ...
帰りたいよ...



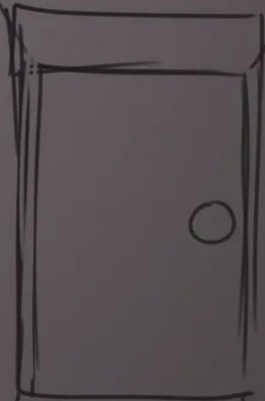
F1



こころはいいけど……
右に2階への階段
手分けして行くか!!



にかった。
俺らは2階に
行く!!行くぞ!!



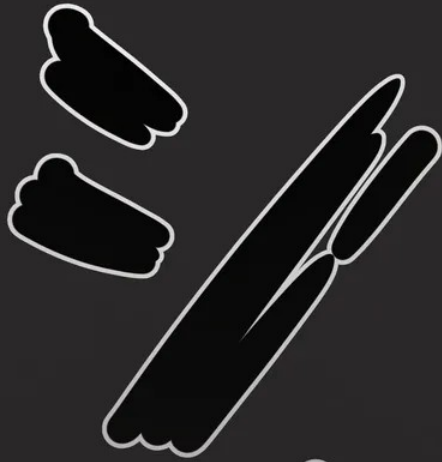


うわあ

いかにも何かありそう
之感じするよねあっ..
楽しくなってきた!!



なまぬい...
そいつは...



な、なんだよ

お前!!

っ!?人間じゃない!?

この服が脱げて!!

目の前に現れたのは
人間じゃないか? 何かがあった。



おっオッあ
ちんちんおぼいに
はまわて!!?

ああ
なんかちんちんが
へんな感じ!

むぎやう

そして少年の性器は
何かがその巨大な乳房に
よって余すことなく
つままれていた。

へんにかきま
からあま

あま
だめ
うにが+いぬ

ぽん

ぽん

何かはその乳房と上下に
動かし少年の性器を
弄び始めた。未知の快感に
少年は恐怖する。

あゝ♡
なんか気持ち
いいしまらな♡

だめ!!
おしこごぢやう!!
せめて♡



今まで一度も性器による
快感と味わったことのない
少年にそれと耐えること
など不可能であった。



ハートっ
ななごたあ
なにこれえ♡♡

初めこの快感、射精に
少年は困惑し息を
切らす。

!?

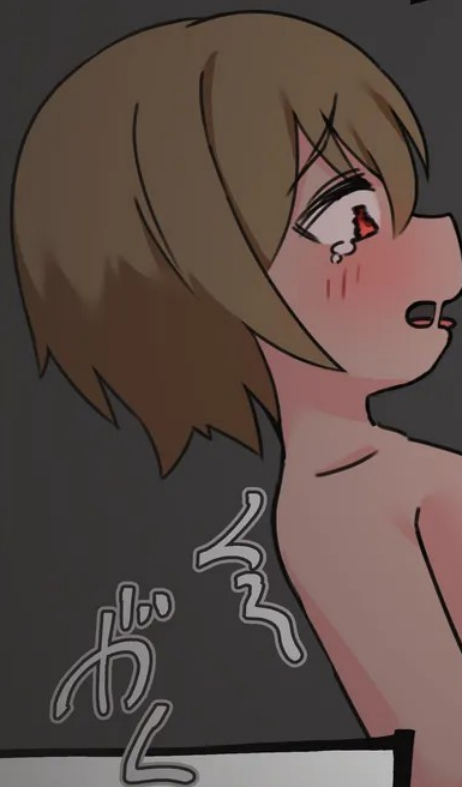


ぽんぽん
ごちゅん

ぽんぽん
ごちゅん

たぶん♡
♡♡

ああああ♡
もうだめ♡
まもまいのよまもい



ぽん♡
ぽん♡
ぽん♡

ぽん♡

ぽん♡

ぽん♡

ぐん♡
がく

がく♡
がく♡

しかし無情にも
化け物はまた乳房を
動かし始めた。
少年は過剰な快感に落ちる。



うあああ♡
ぐちぐちしなご♡
ちんちんなんなる♡

あて♡
いびり♡
やべ♡



射精の敏感な性器と
精液を潤滑油とし
その滑らかな乳房で
弄んでいく。

あーん
あーん

おらあひん
どろとまたどろと
どろろろああ

ぽん
ぽん
ぽん

ぽん
ぽん

ぽん
ぽん

ぽん
ぽん

ぽん
ぽん

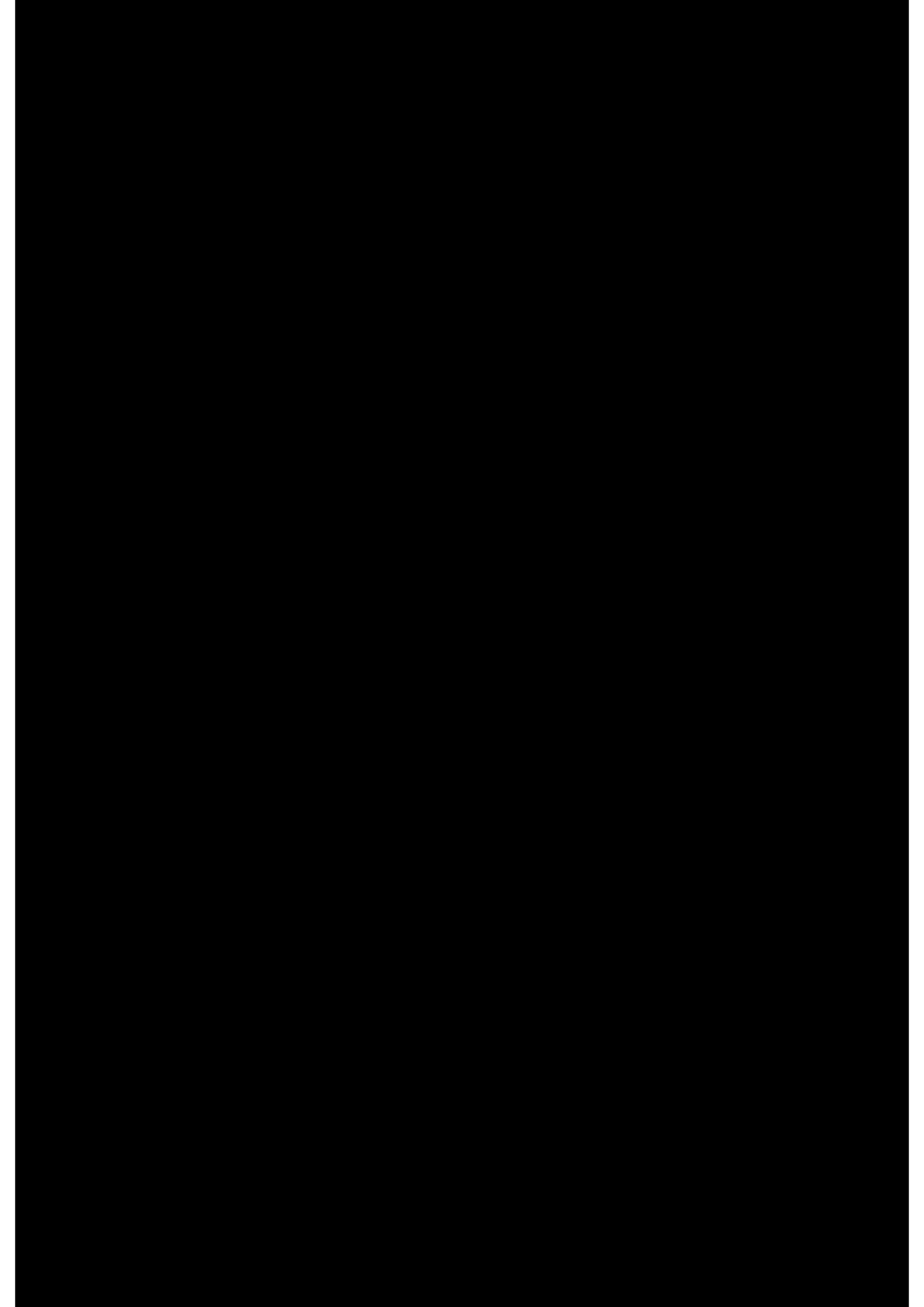
ぐ
ぐ

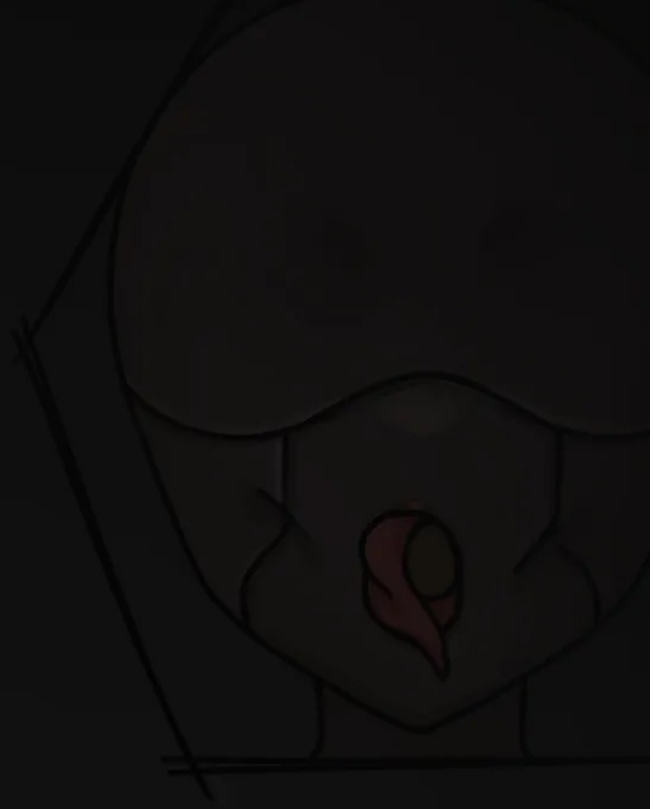
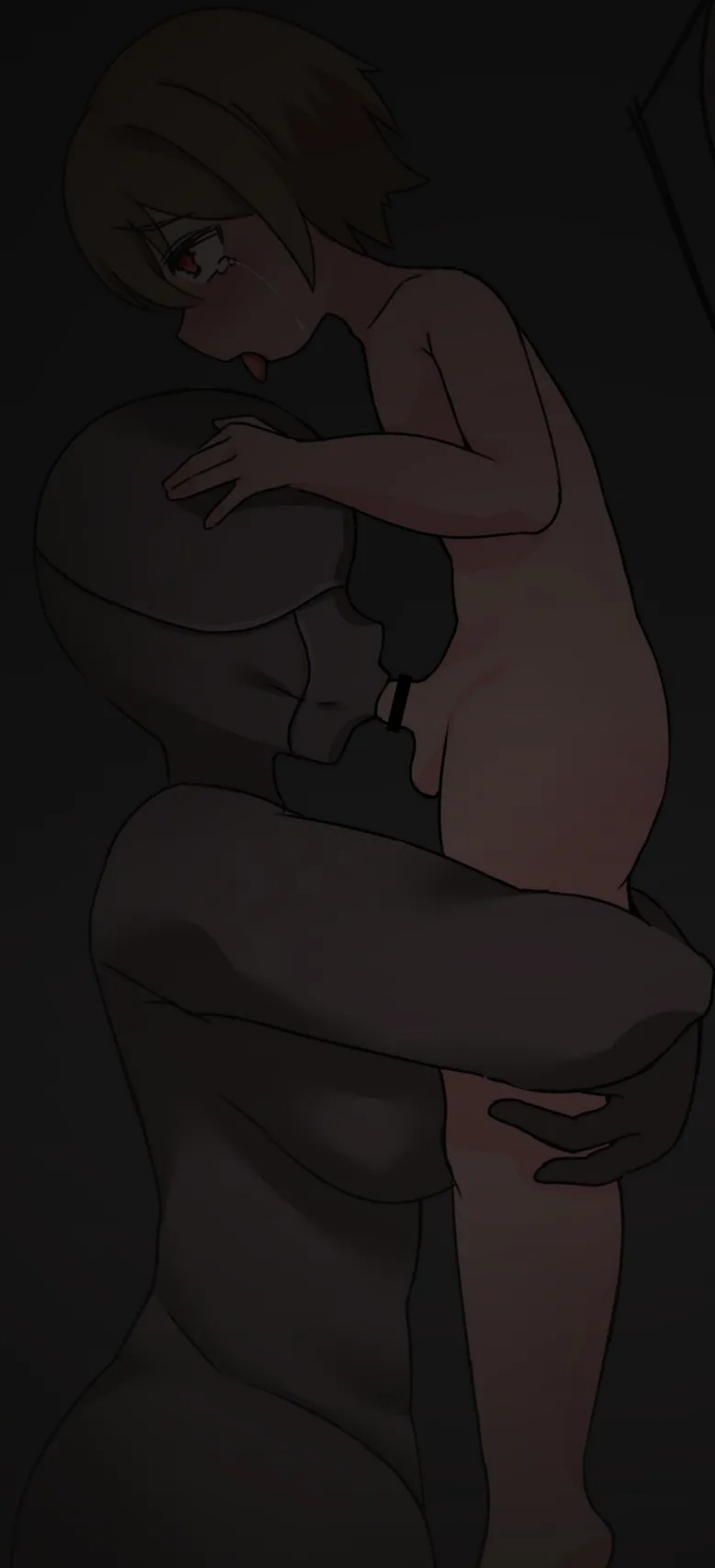
ぐ
ぐ

少年はまたも限界を
向かへ射精の準備と
始める。
そして...



薄れこへ。
のせが少年の意識も



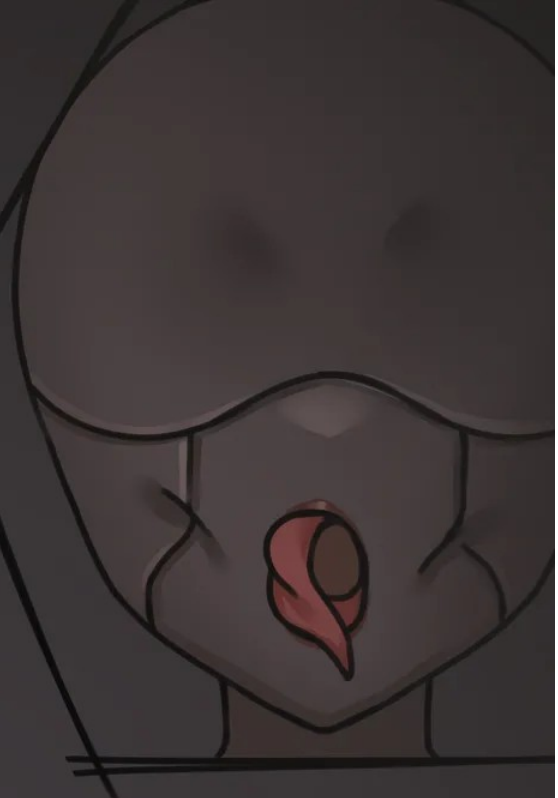


!?
うん
食へられてる



強すぎる快感で
目が覚めた。
少年は性器をしゃぶられて
いた。

あら
だめ
食なご



ん
ん
ん

ん
ん
ん

散々おっぱいで精を
搾取されても尚、
何かは満足していった。
少年はまたも精を搾られる。

まこ
まだだよ
やだよだ!!
やめよ



いっしょ

いっしょ

あれだけの精を放た
にもかがみず
少年は早くも…



あまに
いっしょ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ



射精した

おおおお
とあし
もろろ

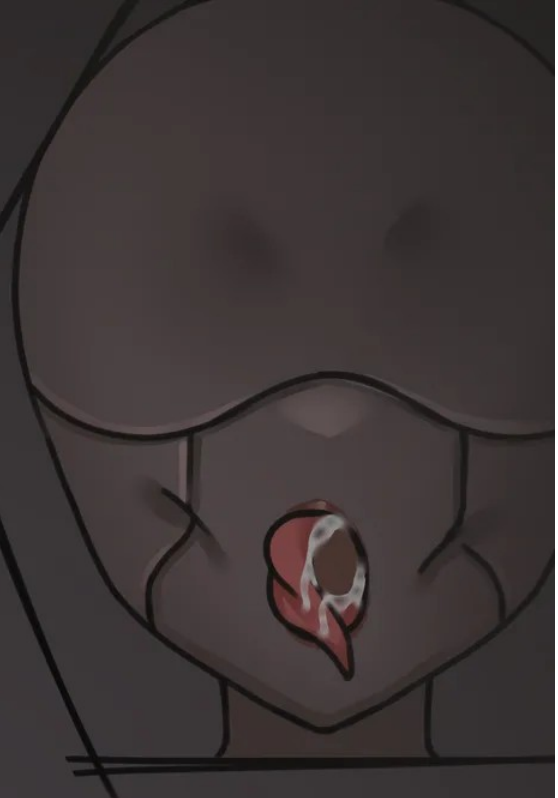


それでも決して搾精は
止まらぬ。
性器に舌が絡み精をよこせと
ねぶり口の中で犯してくる。

もうモロモロだめだめだめ
セーブして



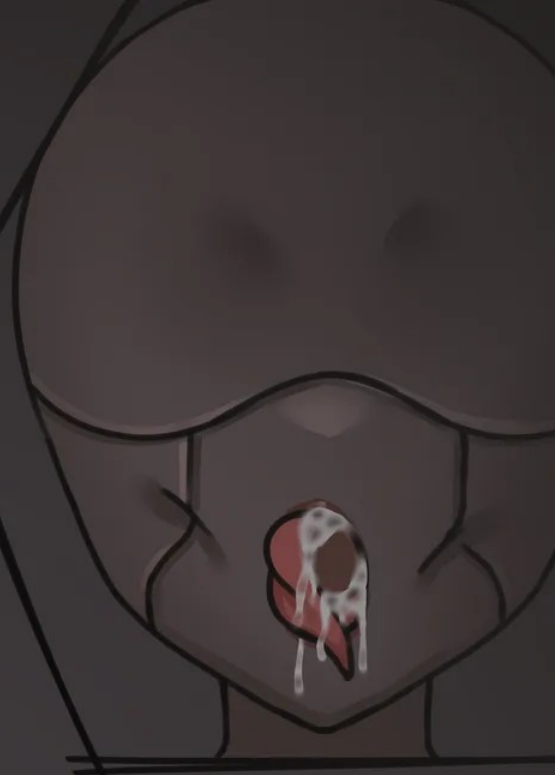
限界を超えた快楽に少年
は腰を引こつとすがるが、
両腕でがっちり抑えられ
逃げられぬ。
少年はなすすべもなく弄ばれ
セーブ...



絶頂する。
終わりの無い搾精劇に
少年は意識を手放そうと
するが強すぎる快感で戻される。



そして射精する。

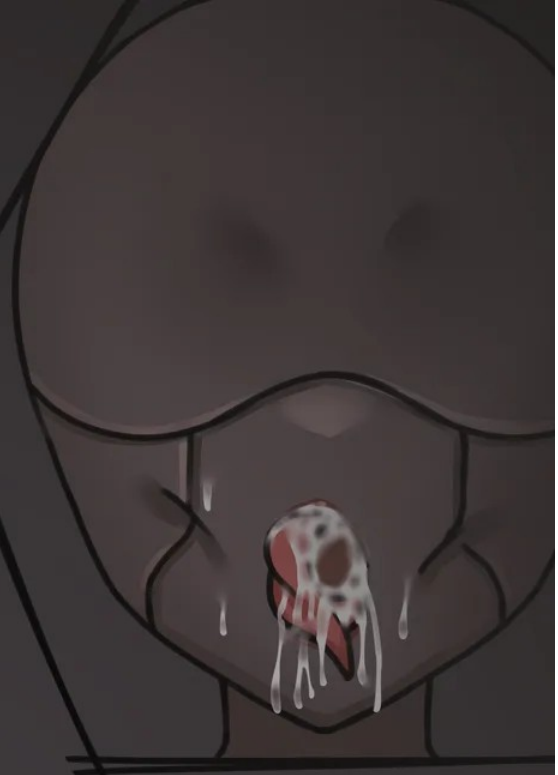


あああああ
あ

んんんん
ん



舌で舐められ射精
舌でしごかれ射精
舌で吸われ射精
舌で圧迫+射精
決して終わらない逃げれない快楽

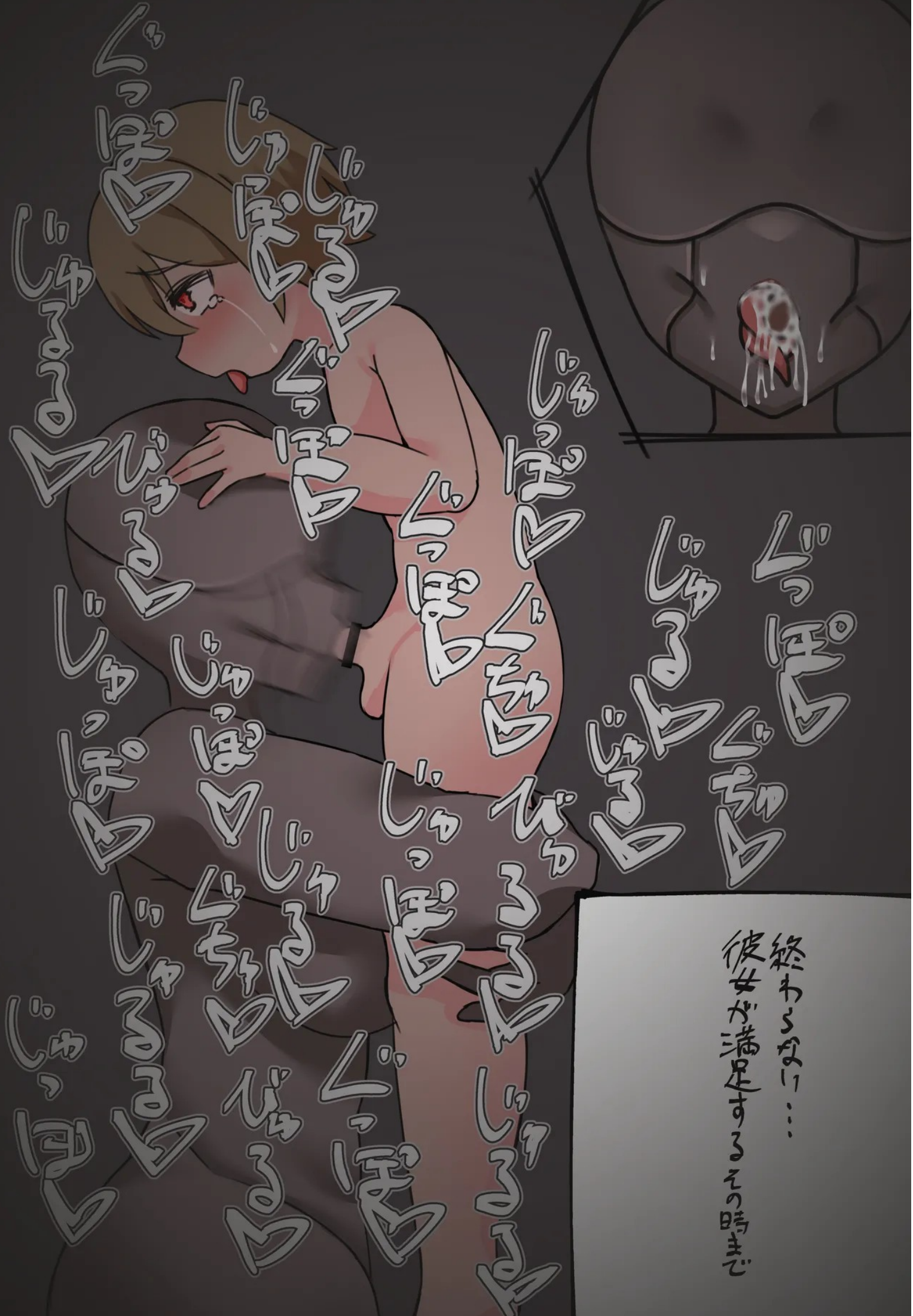


んんんん
んんんん

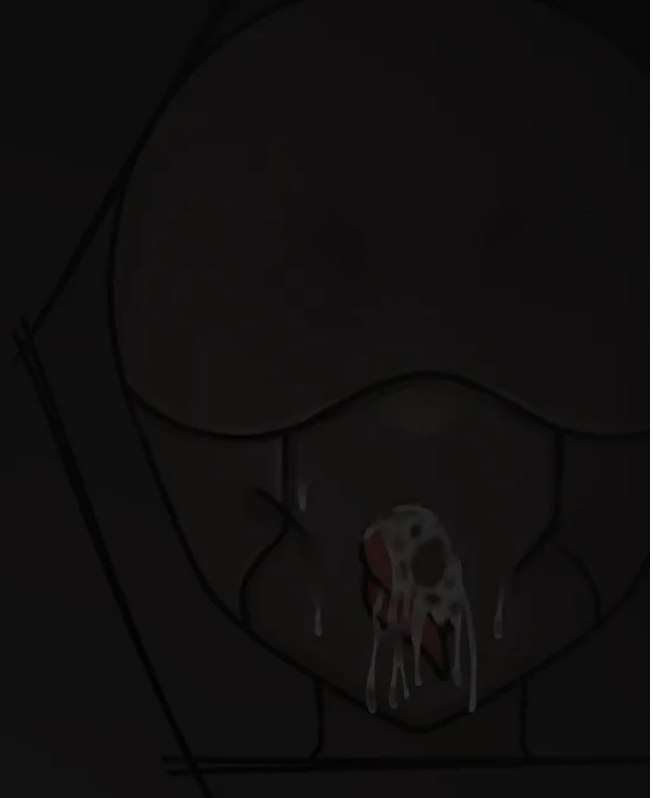
あひの
んんんん
んんんん

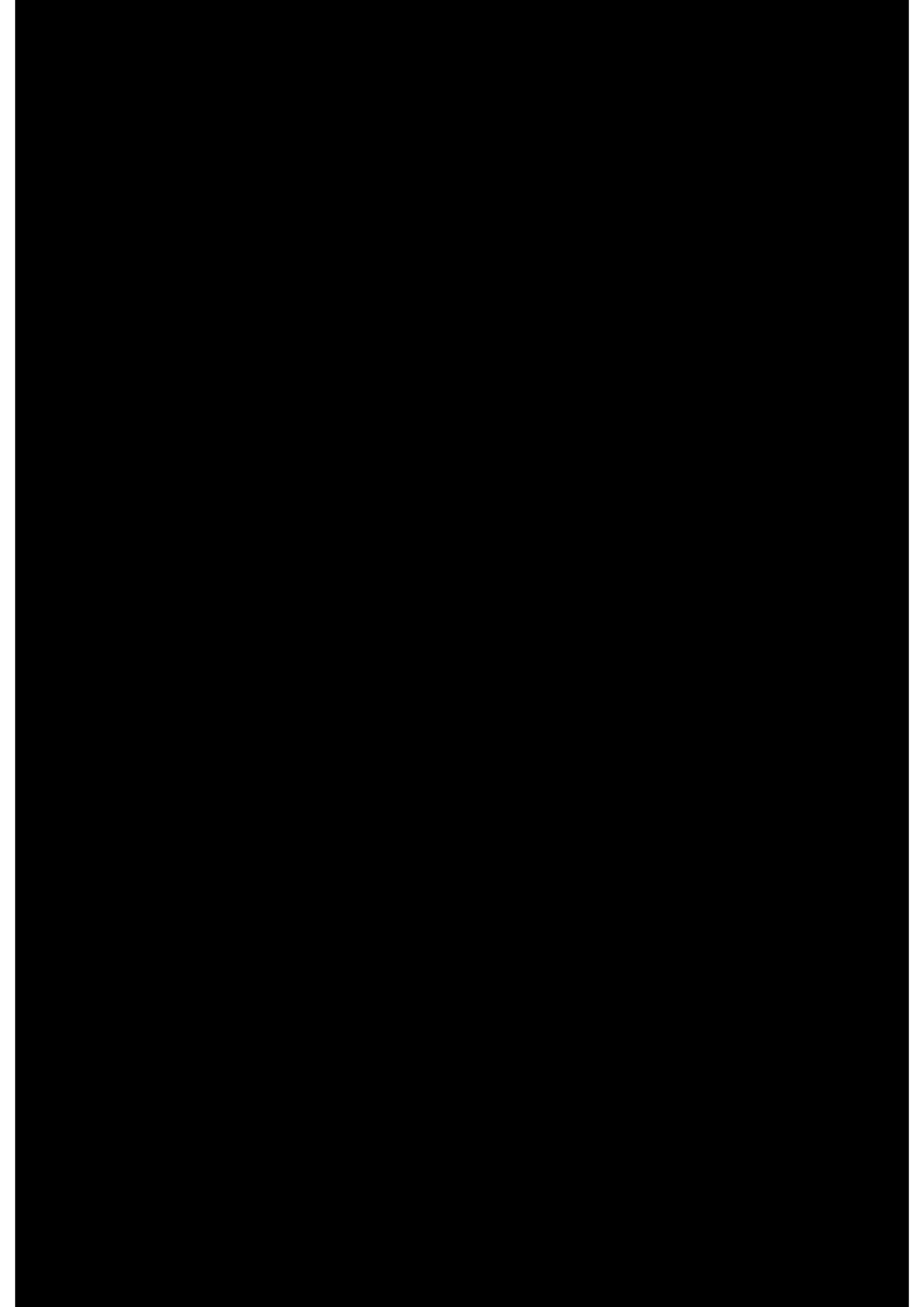


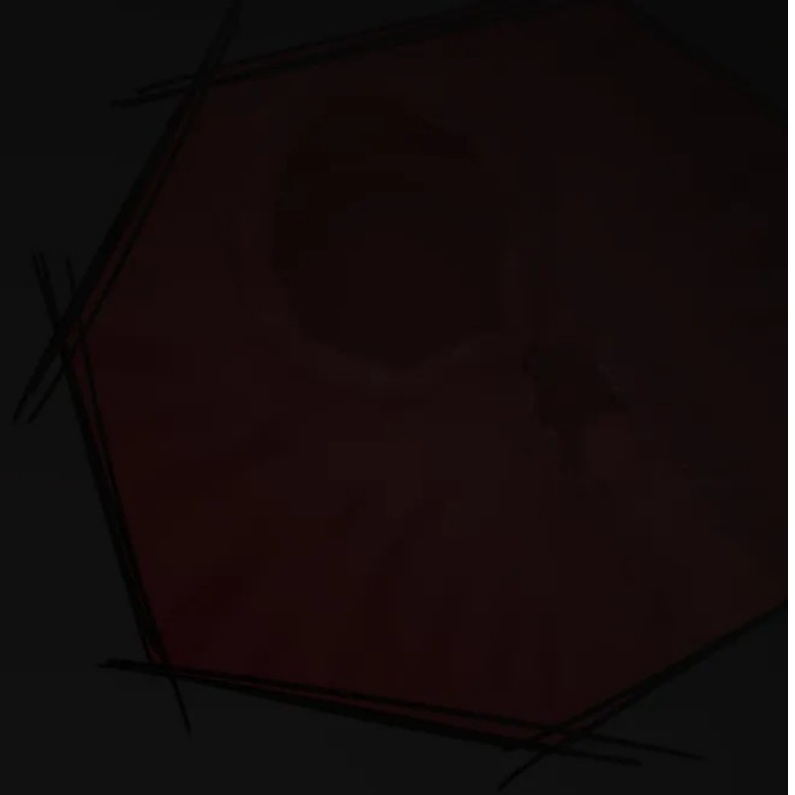
意識と手放なすにも
放せず、ただ精を搾られ続け、
射精以外に道は無く、
無慈悲にも続く搾精劇

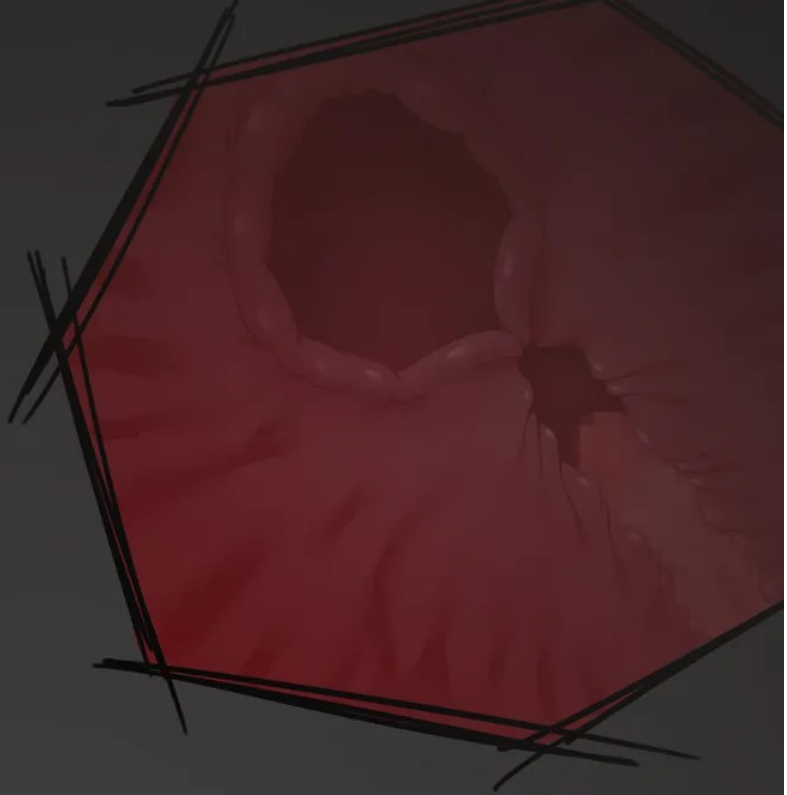


終わらない…
彼女が満足するその時まで









一、二時間ほど口で加えられ
搾精された所で

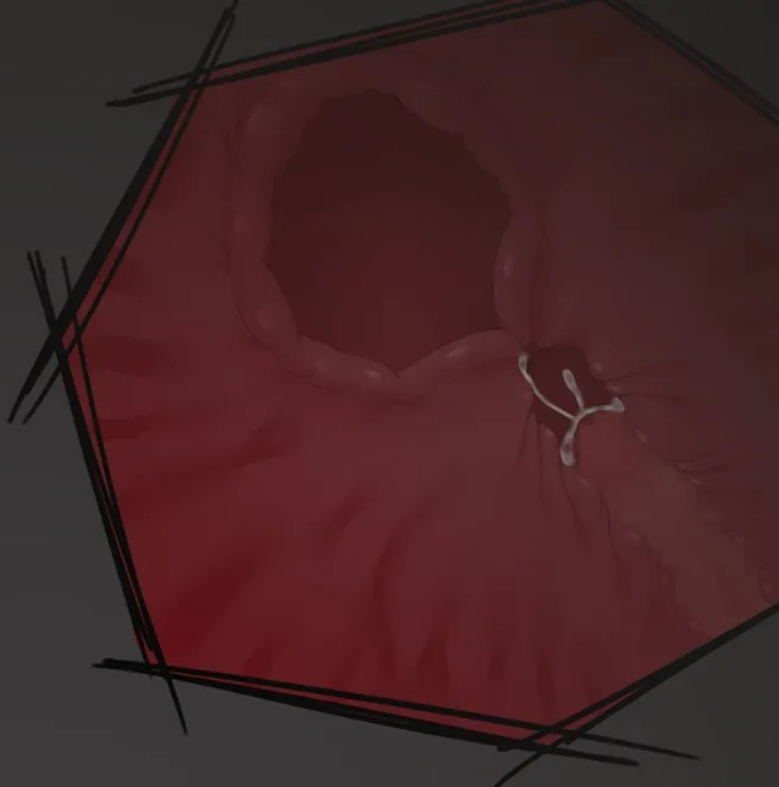
何かの動きは止まっていた。

ほっとしたのも束の間何かは

少年の性器と自分の性器に挿入した。



ず
ちゅん
ん
♡



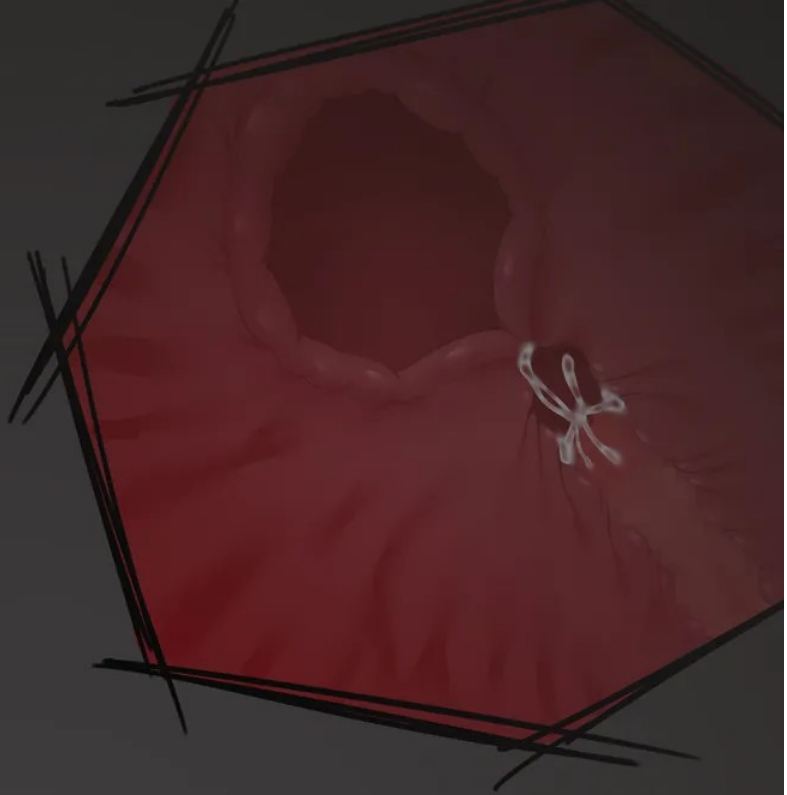
射精した。少年は射精した。

入れた時の刺激だけで射精したのだ。何々の性器は各器だった。この世のどの女も。

びゅん

びゅん





また射精する。

止まらなかり。十一回精通した

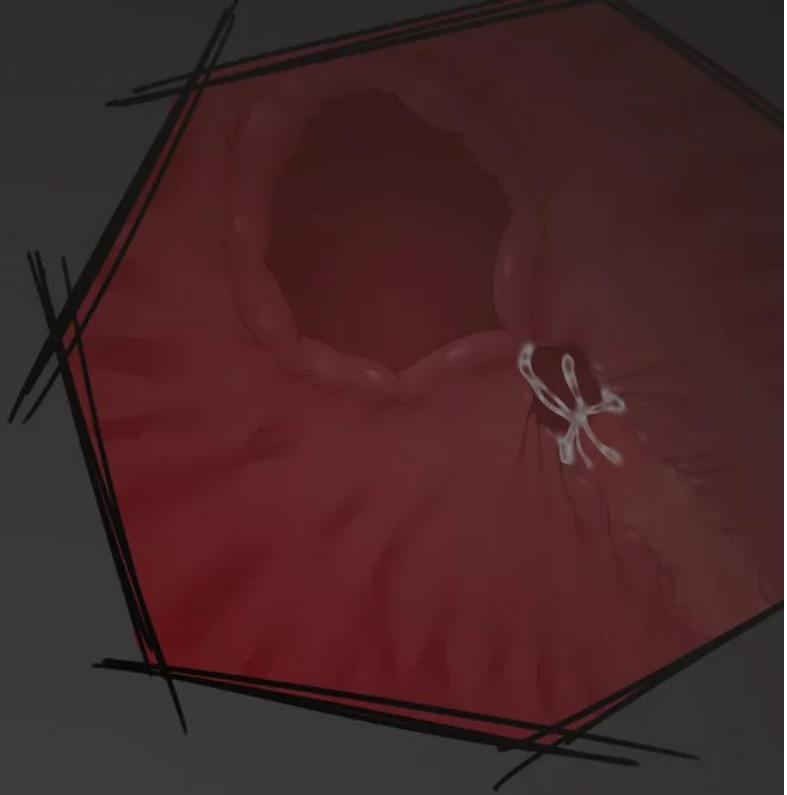
ようなまだ快楽を覚えたこの

少年には到底耐えられぬおな

刺激ではなかつた。



びびる



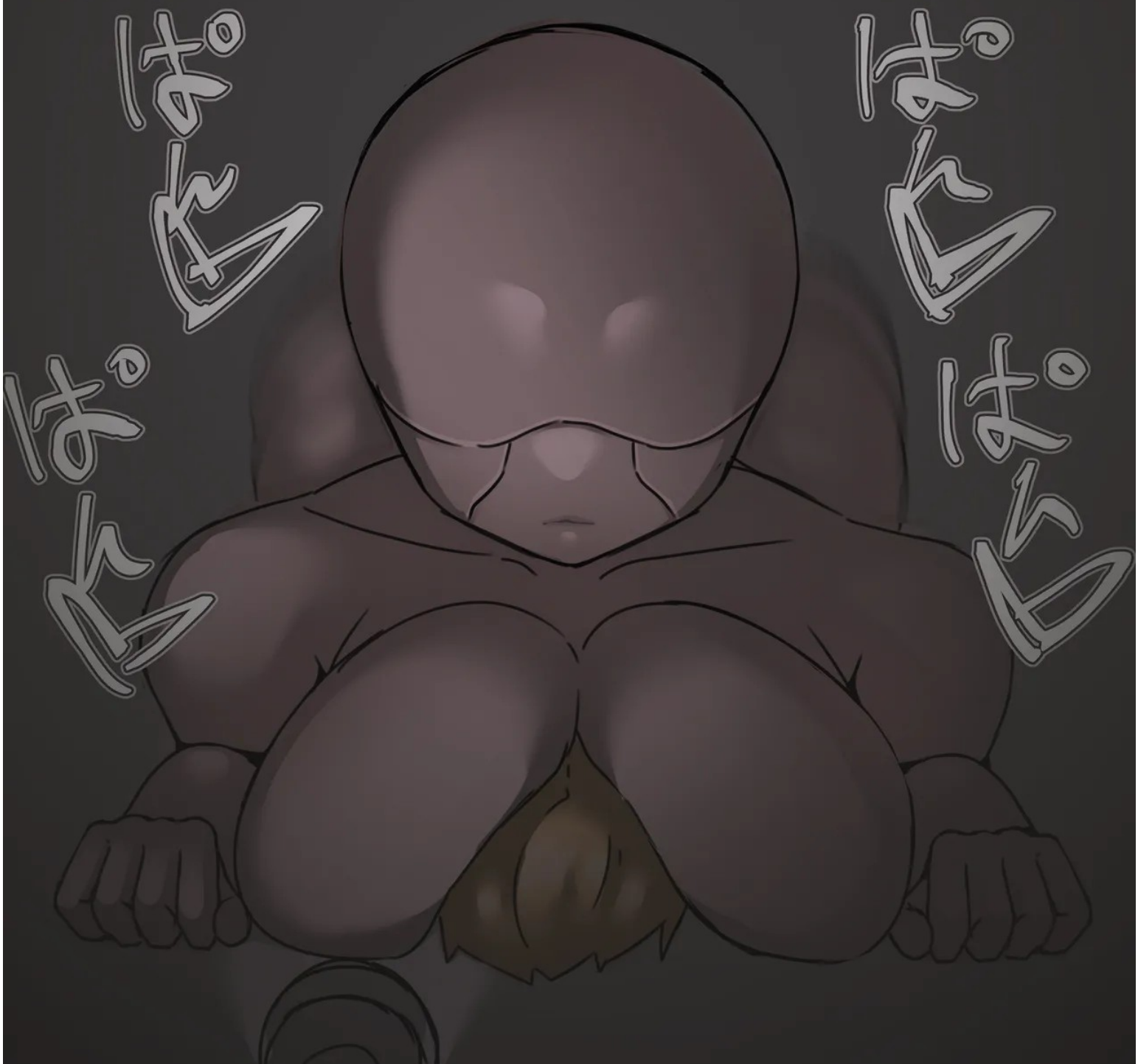
腰を激しく振る始まる。

少年の性器とその淫靡な肉

ご容赦なくしごきこたてる。

そんな快楽に耐えられる。

わけもなく...





ストーリーはオチをきかすのでなく。

もったいませい。もって射精しろと

言わんばかりに少年の性器

をしばしば...



射
精

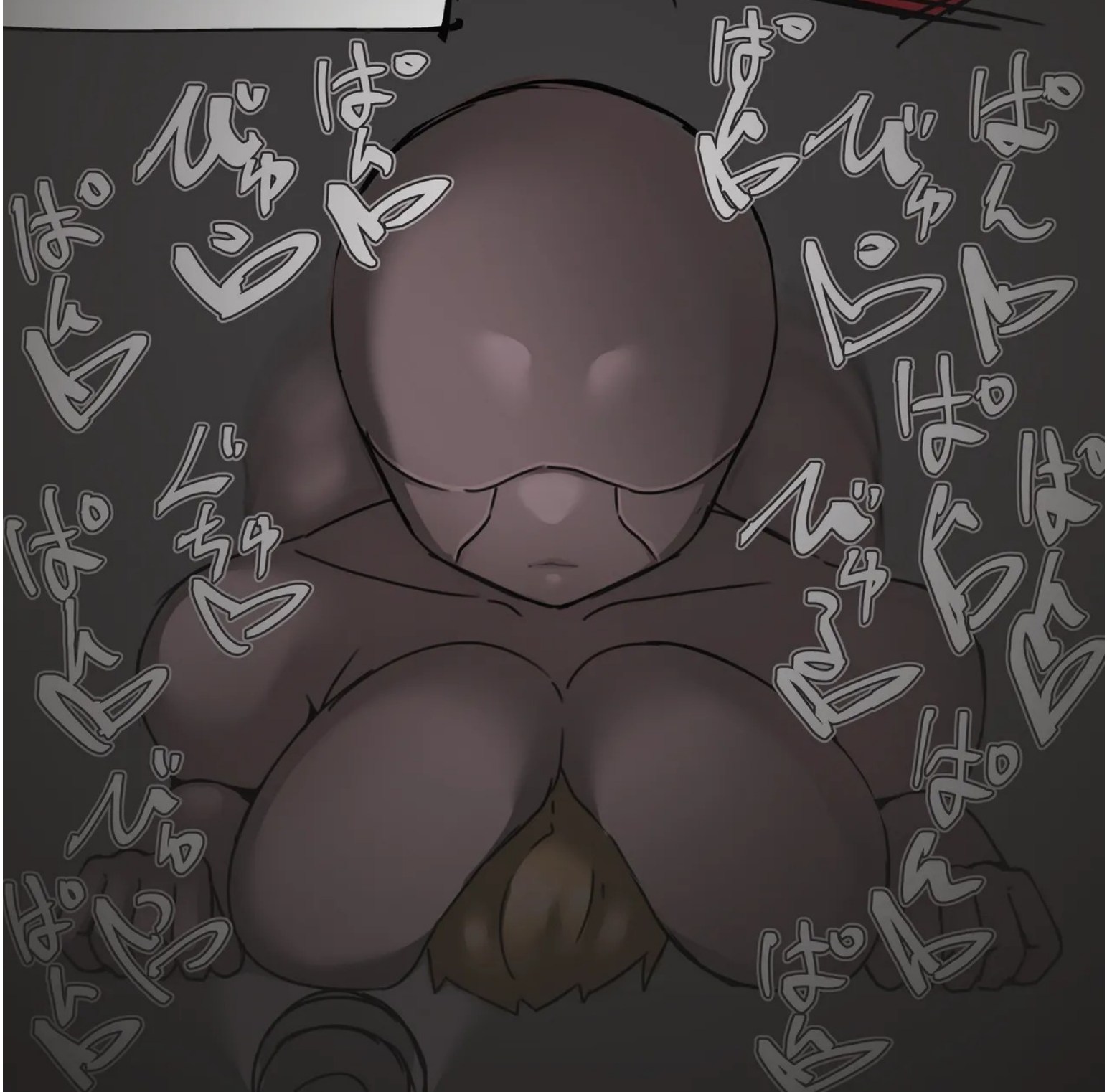




休むにしろかまなく腰は振られ
休むこともできず射精させ
られる。少年の脳は快樂た
らく染められていた。



射精
射精
射精
射精
射精





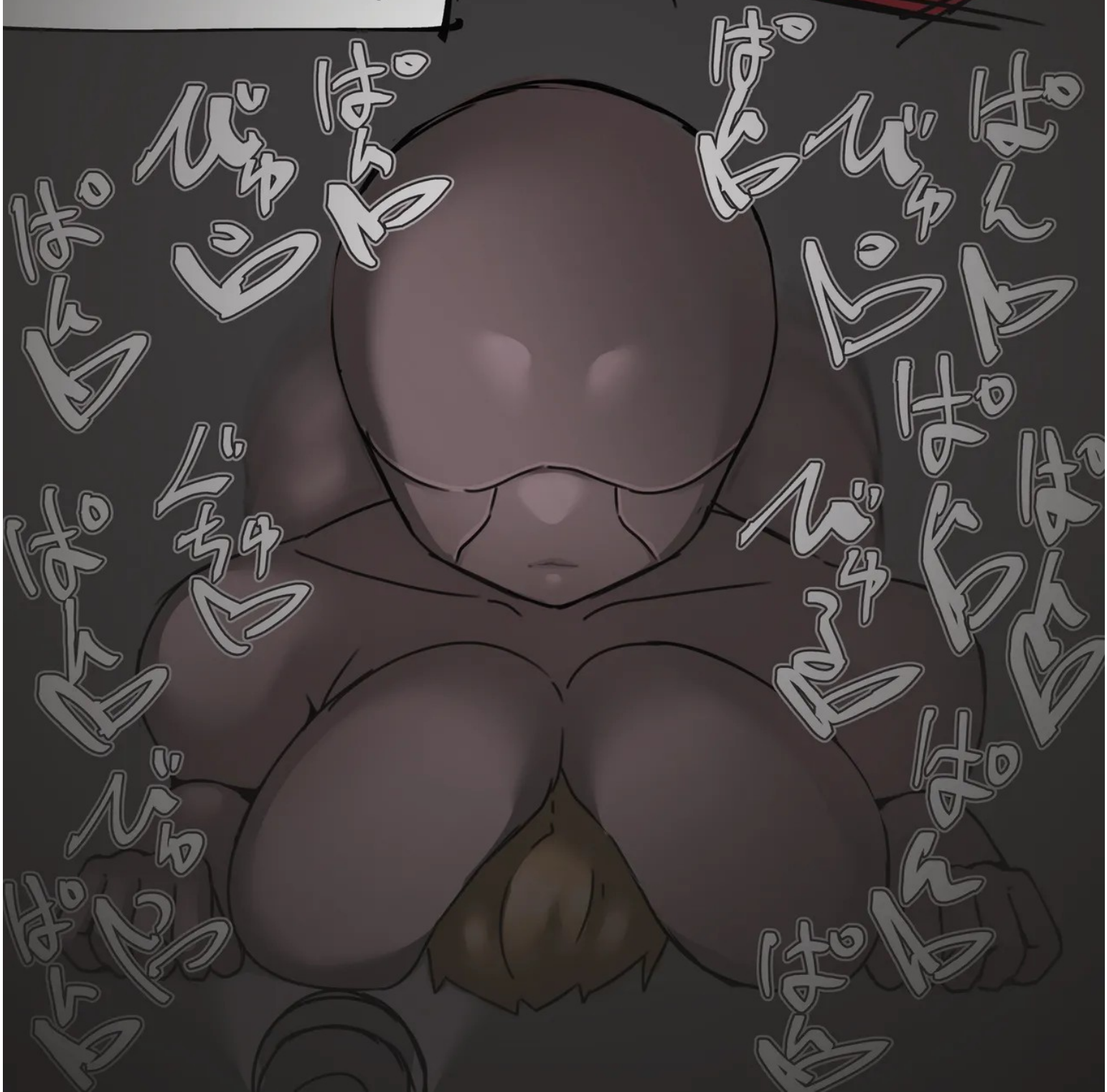
彼にこれから待つことよのよ

朝に射精昼に射精夜に

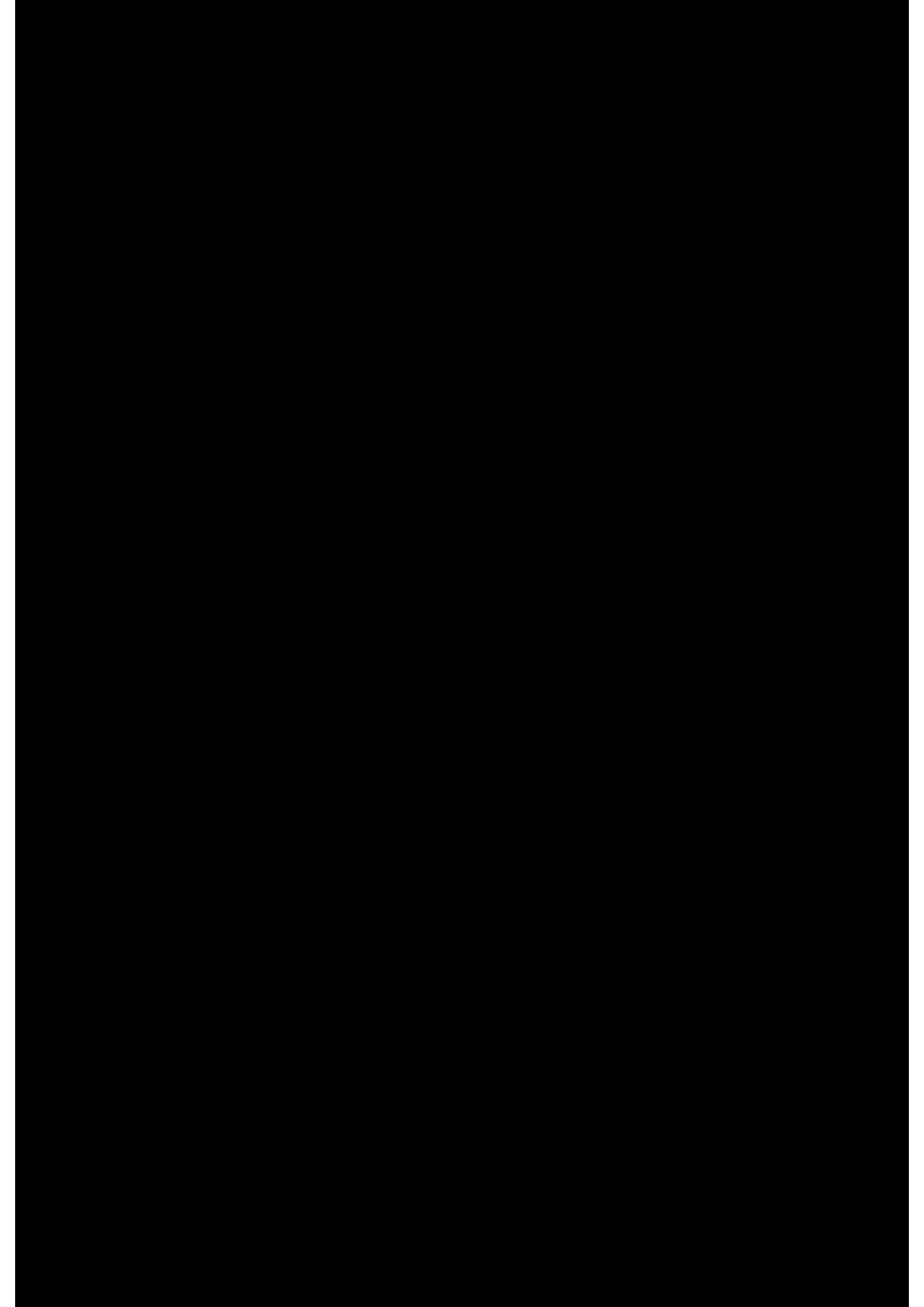
射精いつでも射精

彼女に支配され精を垂れ

流す未来であった。







く君どい〜る〜
先に行かないでよ〜



ん？





うわ!?!
お姉さん誰!?!
2



えっ？
反転したの……

これ入形だ
なんぞいんぢやないか...

冷たっ!!
えっ!?





わっ~

ん?
!



へた

あ

35
あ
あ

が



が

が

少年は運が悪かたに
不運にも風が吹いたせいで
マシンが起動してしまた。
はいはいはいはいはいはい

マシンが起動した

だ、
まじか
ん!!

アーン

アーン



見ても無残な搾精劇
少年はこれから何度か
無慈悲に情け容赦なく
精を搾り取られるのだ。

おれは
おれは

おれは
おれは
おれは

ん!!

おれは

おれは



キヨニシーは少年を
カズくで抑え込み
抵抗するカが
なくなるのを確認し

7h

ギョ
ッ



その肉々しい太もも
で少年の性器を搾り

始めた。

えっ、なに？
!?

うわっ、
アッ、アッ、アッ

あ、
カ、カ、カ

アッ、
アッ、アッ

まだ射精を知らない
よくな少年にはあまりにも
刺激的すぎた。
抱まかかえられ乳房を
押しつけられ、

おっぱい

んんん!!
ぢゅんぢゅん

ぢゅんぢゅん

ぢゅんぢゅん

ぢゅん





唇を奪われ口の中を
犯す女がいら性器も
たももどしてなれ。
少年に耐えられぬ道理も
なげなげ。

びびびびびび

びびびびびび

びびびびびび

びびびびびび

射精



びびる

びびる

びびる

突然キョロニーの動き
が止まる。ヤと終わったと
思ったその時。



少年は押しつぶされた。
キョニシの乳房に顔を
抱まれその香りを鼻に
吸り込んでしまった。

どっぴん

どっぴん



肺が濃厚なフェロモンで
満たされ少年はどく
どく興奮する。

その時彼女の服と性器が濡れた。



少年はまたもや泣き出した
彼は泣いた。そして泣いた。そして泣いた。
はからい腹を指さす。泣いた。
少年はまたもや泣き出した
す。彼は泣いた。そして泣いた。そして泣いた。



おんおん

おんおん

おんおん

声を上げてモロモロおれはかたもろおれ
香りを吸い込んでしまおう。
吸い込めば吸い込むほど
射精感が高まり限界を超え



すっぴん

がくがく

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

射精してしまおう。



このようにお尻を叩くと
お尻の匂いを吸い込んで
ごしまい...



射精。
射精。
射精。

は
ん

は
ん

は
ん

は
ん

は
ん

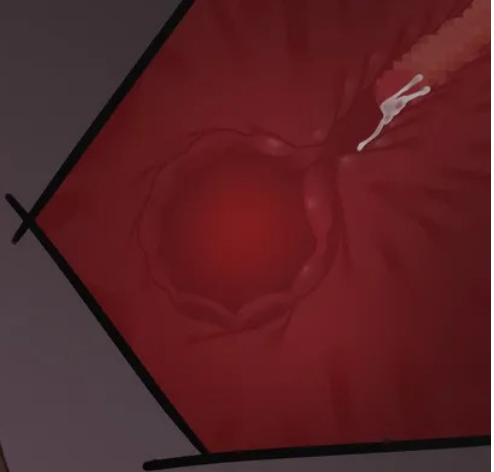
は
ん

は
ん

ナースの制服は
廻りの厨子達の
性器を挿入する。

ずぶずぶ





この女もまた名器であり
少年が味わうにはあまりにも
早すぎる。そんな快楽に
おぼれ少年は...

お嬢さん
お嬢さん

お嬢さん
お嬢さん

どれだけ射精しても
彼女が解放してくれ
ることはなくその性技を
容赦なく少年にぶつける。

は。ん。は。ん。は。ん。

は。ん。は。ん。は。ん。

は。ん。は。ん。は。ん。

は。ん。は。ん。は。ん。

は。ん。は。ん。は。ん。

は。ん。は。ん。は。ん。

は。ん。は。ん。は。ん。

は。ん。は。ん。は。ん。



続く...